



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.43 2016.8

目次

巻頭言	1
特集 ライブラリカフェ	3
本との出会いを楽しむ<16回>	5
図書館に関する話題<16回>	6
他大学図書館紹介	8
Library News	9
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	11

元気な附属図書館であるように

弘前大学附属図書館館長 中根 明夫



本年2月1日付けで附属図書館長を拝命しました中根と申します。私と附属図書館(本館)との関わりは、平成20年に弘前大学出版会編集長を仰せつかってからのことです。4年間にわたって毎週、医学部から附属図書館に通い、出版会事務局の方々と仕事をしました。そして、4年ぶりに附属図書館との縁が復活しました。

私自身を振り返ると、学部学生時代には大学附属図書館で勉強したり、所蔵図書を読んだ記憶がほとんどありません。しかし、大学院生になると、学術雑誌で自分の研究に関する参考論文を検索するために図書館に通うようになりました。さらに、博士課程に進むと、最低週1回は図書館に行って新着ジャーナルを手にとり、関連論文を探す習慣ができました。教員になってからもこの習慣が続きました。新着雑誌のインクの匂いや紙の手触りを楽しみつつも、関連雑誌

では自分の研究が先に越されないだろうかとハラハラドキドキしながら、また Nature, Science, Cell には、いつか自分の名前がある論文が掲載される日が来ることを夢見ながら、珠玉の時間を過ごしました。そして、実験の予定が少ない日には、Chemical abstract や Biological abstract などの冊子体のキーワードで論文を検索し、面白い研究が出来るシーズはないかと模索・夢想していたころが懐かしいです。しかし、ここ10年あまりは電子ジャーナルを研究室で検索することが中心となり、図書館から足が遠のいてしまいました。

図書館というと、これまでは、利用者が黙々と蔵書を検索したり、文献を調査したり、論文やレポートを書いたり、試験勉強をしたり、という静寂につつまれた重厚な雰囲気のあるところであるというのは共通の認識であると思います。

しかし、教育手法や研究手法の変貌、そして電子ジャーナルをはじめとする情報発信がアナログからデジタル化へ進化するなど、大学附属図書館のありかたについてはさまざまな選択肢が生まれています。「大学の象徴の場」「研究のため蔵書や雑誌を検索する場」「貴重資料などの資料をみる場」「教養の源の場」「自学自修の場」「グループ学習の場」「デジタル情報収集の場」などなど、それぞれの立場、経験、年齢などにより百人百様であると思います。しかし、どれかが正しくてどれかが間違っているというわけではなく、どれも図書館の存在意義として正しい意見であると思います。それだけ、附属図書館はさまざまな点において重要な役割を果たしていると思います。また、情報発信のデジタル化によって、図書館機能が附属図書館の建物内だけではなく、パソコンがある部屋、さらにそれにとどまらずタブレットやスマートフォンなど場所を必要としない環境に至るまで、つまり各個人の場に図書館がある、といっても過言ではありません。

ここ数年、大学の教育が「パッシブ・ラーニング」から「アクティヴ・ラーニング」への転換が推奨され、全国の国公立大学附属図書館に「ラーニングコモンズ」と呼ばれる学生が集まって学修をする場が積極的に提供されるようになりました。本学附属図書館も改修時にラーニングコモンズが設置され、学生の学修や授業などに活用されています。従って、図書館は全館「静寂の場」から、一定区域に学生のディスカッションの声が聞こえるという「議論の場」が併存するようになりました。教育環境整備のひとつの成果であると思います。

それでは、研究の場としての附属図書館はどうなのか？附属図書館はもちろん、蔵書や貴重資料を活用した研究の場でもあり続けることが第一です。その一方、先ほど申し上げたとおり、情報のデジタル化により大学キャンパスだけではなく個人の住居や出張先にも図書館機能が使用できる環境になっている現在、附属図書館の機能として研究面の充実に向けられる必要があります。現に文部科学省は、各大学のオープンアクセス及びオープンデータを含むオープンサイエンスの促進を奨励しています。ひとくちにオープンアクセスと言っても、グリーンオープンアクセス（グリーンロード）、すなわち研究者自身がWEBサイトや機関リポジトリでセルフアーカイブができれば良いですが、オープンアクセスジャーナルに投稿するゴールドオープンアクセス（ゴールドロード）になると、かなりの経費を研究者が負担するケースが多く、そう単純に行く問題ではありません。一方、オープンデータはビッグデータを含むサイエンスデータをオープン化することで分野によってはきわめて有用な武器になりますが、一大学で構築することは容易ではないと思われます。オープンサイエンスの遂行は、これからの附属図書館の大きな課題のひとつです。

いずれにせよ、附属図書館は大学の教育研究に深く寄与する立場であり、しばしば縦割りになりがちな教育・研究行政の「横串の役割」を果たすべきであるとは私は考えます。附属図書館の立ち位置として、辞して待つ「静」から、満を持した「動」への転換期であると思いますので、今後とも全学的なご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(なかね あきお)

特集

ライブラリカフェ開催



附属図書館では平成27年度に開催したラウンジトークの後継事業として今年度は「ライブラリカフェ」を開催することになりました。

ライブラリカフェは、一方通行ではない先生と学生とのコーヒー（無料提供）を飲みながらの語り合いの場です。月1回のペースでさまざまなテーマをもとに討論を行っていきます。

第1回目は平成28年6月24日（金）16:00から約1時間にわたり医学研究科・中根明夫教授と医学生5名が参加して「感染症と社会問題」をテーマに、新たにオープンした弘大カフェ（外国人教師館）で行われました。会場となった弘大カフェは弘前大学の前身である旧制弘前高等学校の外国人教師館で大正時代に建てられた洋風建物です。この大正ロマンあふれる趣のある場所で、来場者には普段体験することのできない臨場感たっぷりの先生と学生との専門性の高い白熱トークバトルを目近でご覧頂けたのではないかと思います。

今回カフェでは、感染症には地域や人種・宗教・所得・社会システムなど多くの社会的な要素が関与していること、発展途上国における貧

困層での「顧みられない熱帯症」や「HIV感染と所得や教育レベルの問題」などがあること、これらの背景にある先進国と発展途上国の経済途上国の経済格差等に目を向けながら感染症について、熱い討論が繰り広げられました。

当日は、佐藤敬学長もお越しになって、討論にも飛び入り参加されました。カフェ前半では緊張していた参加者も後半では緊張も和らぎ、来場者からの質問にも気軽に応えるなど、会場が一体となって盛り上がり、終了時間を過ぎても討論が続けられていました。

カフェでは、来場された皆さんにもコーヒーが無料で提供されますのでコーヒーを味わいながらトークをお楽しみ頂けます！カフェ当日、その場に来場できない方のために、ライブラリカフェの様様を You Tube Live を使って生放送いたします。また、当日の You Tube Live をご覧になれなかった方もご心配なく！カフェの様様は録画して You Tube で配信もいたしますので、附属図書館 HP「ライブラリカフェ」からお楽しみ頂けます。

どうぞご利用下さい！



第1回ライブラリカフェ討論の様子



第1回ライブラリカフェ会場「弘大カフェ」

今回来場して下さった方の中から2名の方にカフェを聴講しての感想を寄せて頂きました。

【教育学部2年 三橋 美保さん】

"白熱した話し合い"まさにそんな雰囲気でした。解決が難しい「感染症」という話題に、さまざまな角度から切り込みを入れた意見が出されており、ここまで考えられるものなのかと感心でいっぱいでした。時折フロアからの意見も取り入れ、新たに議題として話し合っており、「感染症と社会問題」のテーマを深く掘り下げていました。意見を出すことはできずにいましたが、聴講するだけでも勉強になりました。

また、そのテーマひとつをとっても、医学的な見方、理工学的な技術、社会の実情把握、薬学、教育の必要性などすべての学部が繋がることに気づくこともできました。

これほど白熱した討論ですが、あっという間に感じられるほど、有意義な時間でした。

【人文社会科学部2年 中村 麻希さん】

改装された旧外国人教師館でトークイベントがあると聞き、面白そうだと思って参加させて頂きました。建物の2階に上がってコーヒーをいただきながら待っていると授業を受けたことのある先生もいらっしゃっておお…と思いました。そうこうしているうちに中根先生のイントロでトークが始まり、SARSやエボラ出血熱など世間を騒がせた問題が取り扱われました。難しい話題でしたが、語句の解説などもさりげなく入れられていたのでわかりやすかったです。

医学部の皆さんの熱い志に触れ、質問・疑問にも快く答えていただくことができ、充実した時間が過ごせました。こういう問題を考えるきっかけをもらえてよかったと思います。

第2回目のライブラリカフェは平成28年7月21日(木)16:00から附属図書館2Fオープンラウンジで開催されました。

「続・感染症と社会問題」をテーマに、第1回目引き続き医学研究科・中根明夫教授と医学生3名の他、人文と教育から2名が参加者として加わり、社会問題を中心に医療・地域社会・教育の問題まで多方面からの深い話し合いが行われていました。内容はとても専門的なものでしたが、カフェの来場者からは「とても興味深くためになった」などといった感想も聞かれ、カフェが終了しても熱心にカフェ参加者とお話される来場者の姿も見られました。

第3回目以降のライブラリカフェの予定は附属図書館ホームページに随時掲載していきますので、今後のライブラリカフェに、どうぞご期待下さい！



第2回 ライブラリカフェの様子

本との出会いを楽しむ 第16回

老いては子に従え!?

食料科学研究所教授 中井 雄治



2014年3月の着任以来、青森市に単身赴任しています。だいたい2週間に1度家族の住む茨城に帰り、往復には主に新幹線を使っています。正直なところ道中は寝てしまうことも多いのですが、起きているときは論文を読むか、読書をしています。

上野駅の駅ナカにわりと気の利いた本屋があり、青森に戻る際には車中で読む本をそこで物色することもあります。最近では娘のお薦めの本を読むことが多くなりました。

娘は中学生ですが、通っている学校が始業前に読書の時間を設けていることと、読書好きの家の影響か、かなりの読書量で、私よりもずっとたくさん本を普段から読んでいます。帰省すると、娘がときどき「お父ちゃんこれ面白いから読んでみ。」と薦めてくれます。

まあ、娘がそういうので借りて読んでみると確かに面白い本が多く、中でもよかったのは青柳碧人（あおやぎ・あいと）の『浜村渚の計算ノート』シリーズ。政府の政策によって義務教育から数学が排除された、という設定で、数学教育復活をもくろむ数学テロリストの起こす事件を、主人公で数学好きの女子中学生が持ち前の数学センスと知識で解決していく、というお話です。

今でこそ大きな書店では平積みになるくらい人気がある小説ですが、娘が薦めてくれたころはまだそれほどでもなく、もしかすると先見の明があったのかもしれませんが。

第3巻には、北海道新幹線で函館まで行く、なんていうお話まで登場します。書かれたのは開通前ですが、よくできています。よく読むと、3列シートと2列シートが左右逆に記述されていますが、フィクションですし、それもご愛嬌。

内容的には数学が見事にエンタテインメント化されていて、作者の数学に対する愛が感じられます。私も学生時代にこのような本に出会っていたら、数学が好きになって違う人生を歩んでいたかもしれません。

実は次に読む本ももう決まっています。吉川英治の『新・平家物語』が控えています。こちらは娘が学校の古文の授業で平家物語が題材になったことをきっかけに興味を持ち、読んでみたところやみつきになったそうです。茨城の家にはすでにシリーズがずらっと並んでいて、全部読むのには上野-新青森間、何往復かかるかわかりません。

まだ「老いては」というほど老いていないつもりですが、こと本に限っては娘の薦めるものを当分の間読むことになりそうです。

(なかい ゆうじ)

中井先生にご紹介いただいた『浜村渚の計算ノート』シリーズ、『新・平家物語』は残念ながら本学では所蔵していませんが、吉川英治の作品は何冊か所蔵しています。

所在：「忘れ残りの記：吉川英治四半自叙伝」

和図書（第1書庫2F）請求記号：999||Z9||Y0

図書ID：20000664

「吉川英治集（昭和文学全集26）」

和図書（第1書庫2F）請求番号：918.6||Ka14||26

図書ID：90437150

図書館に関する話題 第16回

「図書館向けデジタル化資料送信サービス」利用開始

附属図書館資料管理グループ 成田 晶代

平成28年6月6日から、国立国会図書館による「図書館向けデジタル化資料送信サービス」がご利用いただけます。

【サービスの内容】

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、図書・古典籍・雑誌・博士論文など、約142万点（平成28年7月現在）を本学図書館の専用パソコンによりデジタル画像の閲覧と複写が出来るサービスです。

【利用出来る資料】

- 図書・・・昭和43年までに受け入れた図書 約50万点
 - 古典籍・・・明治期以降の貴重書等 約2万点
 - 雑誌・・・平成12年までに発行された雑誌（商業出版されていないもの） 約1万タイトル（約78万点）
 - 博士論文・・・平成3～12年度に送付を受けた論文（商業出版されていないもの）約12万点
- 対象の資料は「国立国会図書館デジタルコレクション」画面で「図書館送信資料」にチェックを入れて検索することが出来ます。

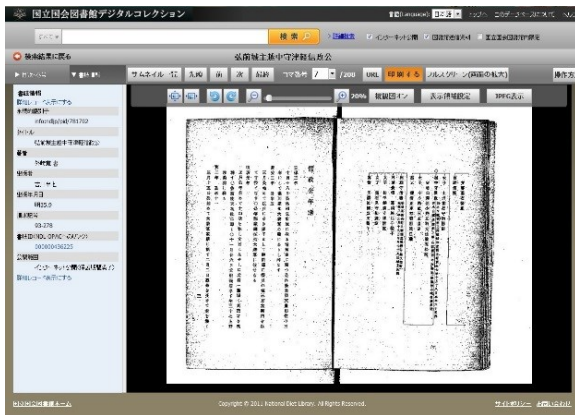


【トップ画面】



【キーワード「津軽 弘前」の検索結果】

※画像は国立国会図書館ホームページより、許可を得て転載したものです。



【文献の表示イメージ】



【絵図の表示イメージ】

【利用場所】

附属図書館本館 1F 参考調査カウンター
専用パソコン 1 台

【利用時間】

平日 9 : 00 ~ 16 : 30



【資料の閲覧】

デジタル化資料の閲覧を希望する旨を参考調査担当にお申し出ください。
申込書の記入が必要になります。学生証または図書館利用証をお持ちください。
画像のダウンロード、保存、カメラ等での撮影は出来ません。

【資料の複写】

デジタル化資料の複写を希望する旨を参考調査担当にお申し出ください。
複写は職員が行います。お渡しまで時間がかかる場合があります。
私費払い、研究費払いが可能です。私費払いの場合は、複写物受け取り時にお支払いください。(支払いは 16 : 30 まで)

【複写料金】

私費・・・モノクロ 20 円/枚 カラー40 円/枚
公費・・・モノクロ 12 円/枚 カラー40 円/枚

【お問い合わせ先】

附属図書館 参考調査担当

TEL: 0172-39-3163

Mail: jm3163@hirosaki-u.ac.jp

他大学図書館紹介

東北女子短期大学附属図書館

学生がたのしく、くつろいで情報を得る場として

東北女子短期大学図書館長 七戸 英之

東北女子短期大学は栄養士養成の生活科と幼稚園教諭・保育士養成の保育科で構成されています。本学は大正12年に柴田やす先生が女性の自立のための女子実業教育のために開設した弘前和洋裁縫学校を祖として、昭和25年に開学しました。以来、「教育即生活」を建学の精神として実務教育を根幹に据え66年、主に女子教育により地域社会に貢献してきました。

本学はその成り立ちから家政学を基盤として昭和31年には図書館を増築し、柴田学園創立以来の貴重な蔵書を管理・利用することができるようになりました。しかし、昭和35年に火災により校舎はもとよりすべての蔵書を焼失してしまいました。そのため蔵書は昭和35年に再建されて以降からの再出発となります。現在、学生が利用している図書館は昭和60年完成の3代目となります。蔵書は家政学関連の書籍、特に食物・栄養、育児・保育が多くを占めて総蔵書点数は4万冊余です。



インターネットによる資料検索があたりまえになった現在、学生はともすると手近な携帯端

末に頼る傾向が強くなっていますが、本を手にとって資料を調べることはピンポイントの情報収集ではなく、予期せぬ周辺の情報にも触れる機会が多いことからできるだけ本に触れる機会を増やすように教員はレポート作成などだけでなく図書館の利用を勧めています。また、学生が図書館を気軽に利用できるように、蔵書を携帯端末から検索できるように電子管理を採り入れたり、閲覧室内の書架には各学科で必要とする書籍を目につきやすいように配置するなど工夫を凝らしています。また、購入図書も学生の希望を積極的に取り入れ、専門書のほか、話題の新刊の購入にも応えています。

図書館の閲覧室は、座席数が42と小規模ではありますが昨年室内をリニューアルして明るく



おしゃやかな雰囲気になり、学生利用がこれまで以上に多くなったことに喜んでます。

今後、アクティブラーニングなど図書館の役割がさらに増すことでしょう。新しいニーズに対応できる図書館を意識して地域に開かれた図書館づくりを心掛けています。

(しちのへ ひでゆき)

Library News

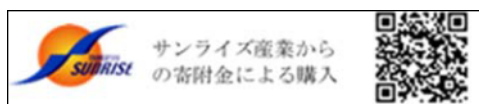
サンライズ産業からの寄付金について

平成28年1月、サンライズ産業株式会社より、附属図書館の資料整備に役立ててほしいとのことで、100万円のご寄附をいただきました。サンライズ産業は弘前市に本社のある総合物流業の会社で、弘前大学の卒業生である工藤博文氏が代表取締役をされています。寄附は会社の創立30周年記念事業の一環で、今後10年間継続して行われる予定です。

附属図書館では工藤氏の「母校の後輩の教育学習に役立ててほしい」とのご意向を踏まえ、地域を対象とした課題解決に役立つ資料、グローバル人材育成に役立つ資料等の整備を進めています。



寄附金で購入した資料の一部



←寄附金で購入した資料には
このラベルを貼付しています

図書館ブログと Twitter 開始

平成28年5月より、弘前大学附属図書館ブログと Twitter の運用を開始致しました。附属図書館で行われたイベント、お知らせ等を発信しています。

たくさんのアクセスをお待ちしています。

ブログ

<http://hulib.hatenablog.com/>
(図書館ホームページよりリンクあり)

Twitter

@HirosakiUnivLib





「Maruzen eBook Library」が学外からアクセス可能に

丸善が提供する電子ブック「Maruzen eBook Library」が、学認のシステムを使って、学外よりアクセスが可能となりました。自宅などの大学以外の場所からも HiroinID を使って電子ブックを読むことができます。

概要

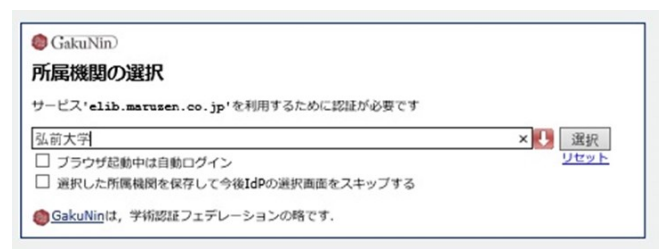
- 本学では、約 900 冊が利用できます。
- 一度に 60 頁ダウンロードができ、端末に PDF ファイルをとして取り込むことができます。
- ほとんどのタイトルは同時アクセス数 1 ですので、ダウンロードしてから読むのがお勧めです。

ログイン方法

1. 図書館 HP 情報検索の「Maruzen eBook Library」または、下記のアドレスからアクセスします。
<https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/Top>
2. 「機関認証」画面が表示されますので「学認アカウントをお持ちの方はこちらへ」をクリックします。(機関認証画面は、学外からアクセスした場合のみ表示されます。)



3. 「所属機関の選択」画面が表示されるので「弘前大学」を選び、選択をクリックする。



4. 弘前大学の認証画面が表示されるので HiroinID とパスワードを入力し、Login をクリックします。

5. Maruzen eBook Library のトップページが表示されれば、ログイン成功です。学内からアクセスした場合と同様に電子ブックを利用できます。

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成27年10月～平成28年3月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	数	所蔵先
人文学部	中村武司	教育が開く新しい歴史学	山川出版社	1	本館 1
	上條信彦	縄文時代における脱穀・粉碎技術の研究	六一書房	1	本館 1
医学研究科	麻酔学 講座	全静脈麻酔 PRK の実際 : 超音波ガイド下 末梢神経ブロックとの組み合わせ	克誠堂出版	1	本館 1、 分館 1
	今泉忠淳	写真集床屋 50 景	水星舎	1	分館 1
保健学研究科		弘前大学大学院保健学研究科高度実践被 ばく医療人材育成プロジェクト : 活動成 果報告書	弘前大学保健学 研究科	3	本館 1、 分館 2
地域社会研究科		「やさしい日本語」が外国人の命を救う : 情報弱者への情報提供の在り方を考える	弘前大学人文学部 社会言語学研究室	1	本館 1
		「やさしい日本語」の構造 : 社会的ニーズ への適用に向けて	弘前大学人文学部 社会言語学研究室	1	本館 1
		世界は日本語をどう見ているか : 米国・中 国・日本での比較調査	弘前大学人文学部 社会言語学研究室	1	本館 1

白神自然環境研究所	白神自然環境研究所	白神山地の祭り	弘前大学白神自然環境研究所	1	本館 1
		白神山地を学びなおす記録集：白神山地世界自然遺産登録 20 周年記念シンポジウム	弘前大学白神自然環境研究所	1	本館 1
		白神山地の土壌入門	弘前大学白神自然環境研究所	1	本館 1
		学びの森!白神山地	弘前大学白神自然環境研究所	1	本館 1
	中村剛之	Curculionidae : Entiminae (Part. 2) (Coleoptera)	弘前大学白神自然環境研究所	1	本館 1
弘前大学出版会		基礎物理学実験の手引き	弘前大学出版会	3	本館 2、分館 1
		インドネシアの私立大学：発展の仕組みと特徴	弘前大学出版会	3	本館 2、分館 1
		Educational System Innovation for Regional Economic and Social Development	弘前大学出版会	3	本館 2、分館 1
		植物細胞壁実験法	弘前大学出版会	1	分館 1
		地方都市とローカリティ：弘前・仕事・近代化	弘前大学出版会	1	分館 1
		International apple forum in Hirosaki University	弘前大学出版会	1	分館 1
名誉教授	豊川好司	岩木山を科学する	北方新社	1	本館 1
	遠藤正彦	弘前大学医学部生化学第一講座業績集 1	弘前大学医学部生化学第一講座	1	分館 1
		弘前大学医学部生化学第一講座業績集 2	弘前大学医学部生化学第一講座	1	分館 1
		弘前大学医学部生化学第一講座業績集 3	弘前大学医学部生化学第一講座	1	分館 1
		弘前大学医学部生化学第一講座業績集 4	弘前大学医学部生化学第一講座	1	分館 1
		弘前大学医学部生化学第一講座業績集 5	弘前大学医学部生化学第一講座	1	分館 1
	松木明知	日本麻酔科学史の知られざるエピソード	真興交易(株)医学出版部	1	分館 1



弘前大学附属図書館報「豊泉」第43号 発行日：平成28年 8月 1日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会

発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」（三省堂）より